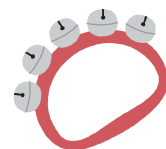




こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

とうきょう すくわくプログラム

ってなに？



「とうきょう すくわくプログラム」は、幼稚園や保育所において、
子供たちが好奇心や興味を持って、わくわくしながら遊び、
学べるよう応援する取り組みです。

取り組みを通じて、子供たちの自己肯定感や思いやりといった
豊かな心の育ちをサポートしていきます。



夢中になって遊び学ぶ

すく
すく

すべての乳幼児の

伸びる・育つ

×

好奇心・探究心

を応援する幼保共通のプログラム

わく
わく



楽しく、みんな一緒に！



とうきょう すくわくプログラム

はこちらからご覧いただけます。

とうきょう すくわくプログラムは、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）との協定の下、東京都の「とうきょう すくわくプログラム推進事業」として策定したものです。



「非認知能力」の育成等、 乳幼児の成長・発達をサポート



すくわくプログラムはどんなことをするの？

安全安心な環境のもと、子供たちが興味・関心を深められそうなテーマを園で設定し、好奇心を持つきっかけを増やしたり、考えを広げ、深めたりする取り組みを行います。

テーマに関する子供たちの
**考えやイメージを
引き出すための問いを考え、
素材や道具を準備し活動**を行います。

テーマ例： 光 色 自然 音 泥遊び 絵本 など

例
〇〇って
なあに？



楽器を使い
音の振動を
感じるなど

例：音をテーマとした活動の様子

豊かな心の育ちを応援

乳幼児期は、
「非認知能力」を培う
大切な時

非認知能力とは

自己 にかかわる
心の力

- ・自尊心
- ・自己肯定感
- ・意欲
- ・粘り強さ

社会性 にかかわる
心の力

- ・心の理解能力
- ・共感
- ・思いやり
- ・協同性

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	明日葉保育園池袋園
施設所在地	豊島区池袋3-58-15
法人名	株式会社 あしたばマインド

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

友だちの声、大好きな両親の声、散歩先での鳥や虫の鳴き声、風や雨等の自然の音、子どもを取り巻く環境下はいろいろな音であふれている。自分に好きな音を友だちと共有したり、友だち同士で音を聞き合い、探求し合う。様々な音に興味を持つことから音の集大成でもある「音楽コンサート」を通じて、感受性や表現力を身に着けたり、様々な楽器に興味をもち、自分で音を鳴らしたり、友だちと一緒に楽器遊びを楽しんでほしい。また、生活の中に「音楽」を取り入れることで、毎日の生活をより楽しく豊かなものにしてほしいと考えた。

2. 活動スケジュール

- ・ 毎日の保育活動の中で（戸外保育時の音探し、楽器あそび）
- ・ コンサートの実施（3回）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

音図鑑、楽器をそろえる。（電子ピアノ、鉄琴、木琴、マラカス、太鼓）

音を楽しむ上で音楽コンサートの開催を計画する。（全3回）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

「お部屋にいとどんな音がするかな?」「テラスに出ると?」「園庭では?」と、耳を澄ましてみることから始めて、音探しに出かける。音探しで見つけた音、日頃の生活の中で感じている音をサークルタイムで共有し、音への興味へとつなげた。

乳児クラスでは保育士が用意した楽器の中から好きなものを選び音を楽しんだ。乳幼児合同の音楽コンサートでは「和太鼓」「三味線」「尺八」「ピアノ」「コントラバス」「ピアノカ」「歌声」を楽しみ、その後の音楽、楽器遊びの興味関心へとつながっていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【乳児クラス】

まずは、手に取りやすく音にやさしいマラカスから楽しんだ。保育士が歌いながら楽しくマラカスを振ると、うれしそうに真似てマラカスを振る姿がみられた。「コンサート」に参加した際には、はじめは迫力のある音に圧倒されていた表情であったが、大人や幼児クラスの子どもたちが楽しんでいる様子に安心したのか、リズムに合わせて体をゆらしたり、知っている曲の時には口ずさむ姿もみられた。

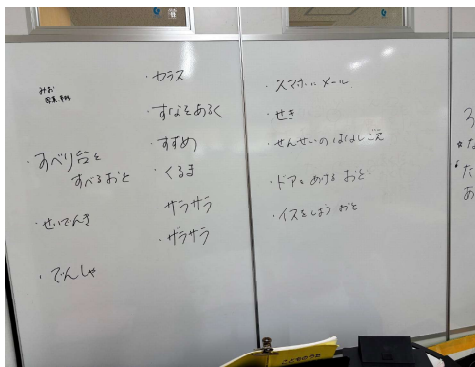
【幼児クラス】

音探しでは、思うように音を感じることが出来ず、がっかりする姿もあったが「飛行機の音」「ヘリコプター」「消防車のサイレン」も生活にはかかせない「音」であることを発見したようであった。「消防車のサイレンは急いでいかなきゃ行けないから音を鳴らして周りの人に知らせているんだよねー」など、自分で考えた意見を友だちの前で発表する姿も多くみられた。「皆がよい音だなあと、感じるのとはどんな音?」という保育士の問いがけに、はじめは「〇〇ゲームの始まる時の音」等、という答えが多かったが、「そういう音も素敵だけど、自然に聞こえてくる音で何かあるかな?」と、さらに掘り下げて聞いてみると、「波の音」「心臓の音」という声も出てきた。子どもたちが自分たちで「音」というものに気づき、自分たちの生活と切り離して考えることができないものであること、音には快・不快があること、に気づき興味を広げてくれたことに感動した。

コンサートでは「和太鼓体験」をしたり、初めて見た「コントラバス」の音色とその大きさに驚いたり、と、貴重な経験を皆喜んでいた。その後の楽器遊びでは保育士のピアノに合わせて合奏を楽しんでいた。

音を探しに…





5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

楽器だけではなく「音」は自分の生活の中にたくさんあること、さまざまな音の種類、快・不快があるのだという話し合いを導入として取り組んだ。その中で、音楽が皆を心地よくさせるものであることに自分たちで気付くことができ、コンサートでより音への興味が広がっていった。乳児クラスにおいても、保育士と一緒に楽器遊びを楽しみ、子どもたちが自ら積極的に活動している姿がみられた。コンサートでは目を輝かせながら参加し、リズムに合わせて体を動かしたり、知っている曲を楽しそうに口ずさむ様子もみられた。「音」への興味、関心への広がりが出てきている。